

短時間通所リハビリテーションを通して考える シームレスなリハビリテーション

医療法人社団らぼーる新潟 ゆきよしクリニック
高野 友美 大越 満

【背景】

平成21年4月に介護保険制度が改定され、診療所にて実施する1から2時間の短時間通所リハビリテーション(以下、通りハ)が新設された。リハビリテーションが切れ目なくシームレスに行われるために、通りハは医療保険における外来リハビリテーションに変わるものとして期待されている。

当院では、この新制度の施行と同時に通りハを開始した。ここでは、当院の通りハ利用者の介護保険サービス利用状況を分類し、次いで、通りハの利用者と、同法人の6から8時間の通所介護施設(以下、デイ)の利用者との利用目的とを比較することで、通りハの特徴を考察することを目的とした。

【方法1】

当院通りハ利用者53名の「サービス提供票」を基に、介護保険通所サービスの利用状況を以下のように5つに分類した。他の通所サービスの利用がない利用者は「初めての通所利用」、リハスタッフによる個別リハビリテーションが行われていないデイの利用者を「個別なしのデイ」、リハスタッフによる個別リハビリテーションが行われているデイの利用者を「個別ありのデイ」、退院直後の利用者を「退院直後」、当院の受診をきっかけに介護保険の申請をした利用者を「当院受診」とした。

【方法2】

対象者は平成21年8月20・24・25・26日の通りハ利用者26名、8月21・22・24日のデイ利用者85名とした。「サービス提供票」に記載されている利用者の通所リハ利用目的を抽出し、さらに筆者が項目を加えた全18項目のアセスメントシートを作成した。通りハ利用者、デイ利用者への説明用にマニュアルを筆者が作成し、マニュアルを職員が読み上げ、利用者が記入した。筆記が困難な利用者には職員が聞き取り、アセスメントシートに記入した。

【結果1】通所サービスの利用状況

「初めての通所利用」は26名(49.1%)で最も多く、「個別なしのデイ」は6名(11.2%)、「個別ありのデイ」は18名(34.0%)であった。介護保険の利用が初めてとなる「退院直後」と「当院受診」はそれぞれ1名(1.9%)、と2名(3.8%)であった(図1)。

【結果2】通所サービスの利用目的

通りハでは「歩行能力を改善したいから(100%)」、「転倒を予防したいから(88.5%)」、「筋力を強くしたいから(88.5%)」、「外出する機会にしたいから(76.9%)」、「痛み・しびれをとりたいたから(76.9%)」が上位を占めた。一方、デ

イでは「体力を向上させたいから(70.6%)」、「筋力を強くしたいから(68.2%)」、「歩行能力を改善したいから(67.1%)」、「会話をする機会を増やしたいから(65.9%)」、「他の人と関わりを持ちたいから(65.9%)」、「転倒を予防したいから(65.9%)」が上位を占めた(表1)。

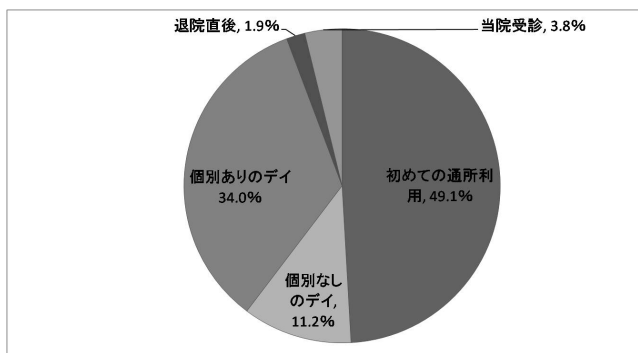


図1 介護保険の利用状況

表1 通りハとデイの利用目的

通りハ	デイ
歩行能力を改善したいから(100%)	体力を向上させたいから(70.6%)
筋力を強くしたいから(88.5%)	筋力を強くしたいから(68.2%)
転倒を予防したいから(88.5%)	歩行能力を改善したいから(67.1%)
痛み・しびれをとりたいたから(76.9%)	転倒を予防したいから(65.9%)
外出する機会にしたいから(76.9%)	他の人との関わりを持ちたいから(65.9%)
	会話をする機会を増やしたいから(65.9%)

【考察】

介護保険通所サービスの利用状況は、通りハが初めての通所サービスという利用者が約半数であった。長時間の外出に抵抗がある利用者が6から8時間のデイに比べて利用しやすいことの表れと考えられる。その一方で、既に6から8時間のデイを利用している利用者も約半数であった。「もっとリハビリテーションを受けたい」、「デイでは行っていないリハビリテーションを通りハで行いたい」といった、さらなるサービスの充実を求めて通りハを利用していると考えられる。これらは利用目的の上位に身体機能の項目が挙げられていることから推測でき、以上のことが通りハの特徴としてあげられると考えられる。

現在、当院の通りハ利用者の中で、医療保険から介護保険への移行者は少ない。今後通りハの効果を示していくことで啓発し、利用者のシームレスなリハビリテーションに貢献していきたい。